



タイトル「**2024年度危機管理学部(公開用)**」、フォルダ「**危機管理学部**」  
シラバスの詳細は以下となります。

戻る

科目ナンバー	RMGT3401		
科目名	災害と法		
担当教員	秦 康範		
対象学年	2年,3年,4年	開講学期	前期
曜日・時限	水 5		
講義室	1205	単位区分	選,選必
授業形態	講義	単位数	2
科目大分類	専門		
科目中分類	専門展開		
科目小分類	専門・法学		
科目の位置付け（開発能力）	<p>■ D P コード-学修のゴールを示すディプロマポリシーとの関連            D P 1 – E 〔学識・専門技能〕 専門分野にかかる理論知と実践知を獲得し利用することができる。            D P 3 – H 〔論理的思考力・批判的思考力〕 理路整然とした思考を備えつつ、偏りを排除するための内省をもって、問題・課題を合理的に解決することができる。            D P 4 – I 〔理解力・分析力〕 文章表現・数値データを適切に扱いつつ、情報の収集と取捨選択、分析と加工を有効かつ円滑に行い、問題の解決につなげることができる。</p> <p>■ C R コード-学修を通じて開発するマインドセット・ナレッジ・スキルを示すコモンループリック (C R) との関連            C1 倫理的思考・社会認識 (5%)            E1 学識と専門技能 (50%)            F1 探求と論拠 (5%)            G1 状況把握 (5%)            H1 論理的思考 (20%)            I3 情報分析 (15%)</p>		
教員の実務経験	国や地方公共団体の研究機関である人と防災未来センター（2002年～2005年）や防災科学技術研究所（2005年～2007年）の研究員として防災行政に係る研修や研究に従事した経験から、2003年以降、国、地方公共団体の防災行政に係る審議会・委員会等を歴任して来ました。これらの業務を通じて得られた実務上の知見や経験を活かし、本講義を展開していきます（第1回～第15回）。		
成績ターゲット区分	<p>■成績ターゲット 能力開発の目標ステージとの対応            3 発展期～4 定着期</p>		
科目概要・キーワード	<p>災害対策を実施する時、その根拠となるのが災害に関する法律です。災害対策に携わる者は災害に関する様々な法制度について知らなければなりません。災害と法の関係を見た場合、災害予防のための法制と災害救助など災害時の対応のための法制、さらに災害後の復旧・復興のための法制に分類できます。災害予防のための法制については社会インフラの整備を中心に発展してきました。災害時において政府や自治体、組織がどのように対応するように法律で定められているか、本講義では災害対策基本法をはじめとした自然災害に關係する法制度の現状について学習し、法學的な視点から災害対策を考える態度を身につけます。授業形態は講義形式により行います。</p> <p>なお、対応するコンピテンスに基づき効果的な授業方法として、又は各授業を補完・代替するためオンライン授業を一部取り入れる場合があります。</p> <p>■キーワード：自然災害、災害対策、災害法制</p>		
授業の趣旨	<p>■副題            過去の災害と法制度整備の歴史を学び、災害予防のための社会基盤の整備や土地利用の規制、</p>		

防災計画などに関する法律、災害対応のための災害救助等のための法制度、そして災害後の事後処理のための災害復旧・復興のための法制を学び、法制度面から災害対策を論じられるようになります。

■授業の目的

災害の予防、災害対応、事後対応のための法制度の現状を理解し、自らの言葉で説明できるだけの能力を身につけることを目的とします。

■授業のポイント

災害に関する法律は非常に多岐にわたります。各法律が実社会でどのように運用されているのか具体的に理解することに力点を置きます。

総合到達目標	<p>■災害の事例と法制度の現状と課題を学ぶを通じて、災害の予防、災害対応、事後対応のそれぞれの観点からの災害に関する法制度について基礎的な知識を学識として習得し、現状と課題を認識することができ、災害に関する法制度のあり方について、論理的思考により自分なりの視点から論ずることができるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模災害に関する法制度を学び、現状と課題を説明することができる。（第1～4回、第15回）</li> <li>・自助・共助・公助に関する法制度を学び、現状と課題を説明することができる。（第1回、第5～8回）</li> <li>・災害の防止・軽減のための社会資本整備に関する法制度を学び、現状と課題を説明することができる。（第1回、第9回、第15回）</li> <li>・火災、地震、水害、火山に関する法制度を学び、現状と課題を説明することができる。（第1回、第10～15回）</li> </ul>	
	<p>■授業参加度（54%）：適用ルーブリック C1、G1、I3            (評価の観点) 災害の危機管理に必要な学識と分析力を身につけるための授業への参加度を評価します。            (フィードバックの方法) 後日の授業等においてフィードバックします。</p> <p>■リアクションペーパー 2回（10%）：適用ルーブリック C1、I3            (評価の観点) 授業の理解が十分かどうか、さらに災害の危機管理に関する基礎的な知識を習得して課題を理解したかどうかを評価します。            (フィードバックの方法) 後日履修者のリアクションに対しての応答を示す。</p> <p>■レポート 1回（36%）：適用ルーブリック E1、F1            (評価の観点) 災害の危機管理に関する基礎的な知識を習得し、災害に関する法制度について学識と分析力を評価します。            (フィードバックの方法) 後日評価の観点を示します。</p>	
履修条件	特にありません	
履修上の注意点	特にありません	
授業内容	回	内容
	1	<p>①授業テーマ ガイダンス</p> <p>②授業概要 授業の全体構成、授業の目的と進め方、到達目標、成績の評価方法のほか、授業の予備知識として国内外の自然災害の発生 状況と法制度整備の歴史の概要を説明し、受講生が授業の準備を具体的に行えるようにする。授業で学んだことを記述してもらうリアクションペーパーの提出時期やレポート作成の時期やそれらのフィードバックの方法などについて説明します。（C1、E1、F1、G1、H1、I3）            担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） シラバスの内容を踏まえ、教科書を読んで、授業の全体の流れを理解しておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、自分の学習計画と他の履修科目との関係について検討する。</p>
	2	<p>①授業テーマ 災害法制の歴史</p> <p>②授業概要 明治以降における災害法制の歴史について学び、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、F1、G1、H1、I3）            担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 教科書や既往文献により、災害対策基本法についての基礎知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、災害対策基本法について、自分なりの説明をまとめる。</p>
	3	<p>①授業テーマ 災害対策基本法の概要</p> <p>②授業概要 災害対策全体を体系化し、総合的かつ計画的な防災行政の整備及び推進を図ることを目的として制定された災害対策基本法について学び、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、F1、G1、H1、I3）            担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 教科書や内閣府HPにより、災害対策基本法についての基礎知識を得</p>

	ておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、災害対策基本法について、自分なりの説明をまとめる。
4	①授業テーマ 災害対策基本法と近年の法改正 ②授業概要 主に東日本大震災以降に行われた災害対策基本法の改正状況を学び、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 内閣府HPにより、災害対策基本法の近年の法改正についての基礎知識を得ておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、災害対策基本法の近年の法改正について、自分なりの説明をまとめる。
5	①授業テーマ 災害時の自助・共助・公助の具体的制度設計 ②授業概要 災害時の自助・共助・公助について、自治体の地域防災計画を実際に読んでみることで考え方・射程範囲についてイメージし、実際の運用のために必要な具体的取組について説明できるようにする。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 事前に紹介する地域防災計画を読んでおく。 ④復習（120分） 地域防災計画の目次項目などを整理してまとめておく。
6	①授業テーマ 自治体防災・危機管理部署の実務・態勢・訓練 ②授業概要 法制度を実際に運用する自治体防災部署の実務態勢（訓練含む。）の実際について、調べて、紹介・説明できるようになる。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 自治体のHPなどを見て防災訓練などの報告を調べておく ④復習（120分） 実際の防災訓練の課題等を整理してまとめておく。
7	①授業テーマ 被災者支援に関する法制度 ②授業概要 災害救助法や被災者生活再建支援法など被災者支援に関する法制度について学び、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 教科書や既往文献により、被災者支援に関する法制度についての基礎知識を得ておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、被災者支援に関する法制度について、自分なりの説明をまとめる。
8	①授業テーマ 避難行動要支援者対策 ②授業概要 災害対策基本法の改正に伴う「避難行動要支援者の避難行動支援に関する取組指針の改定（令和3年5月）」を踏まえた自治体の取組を学び、説明できるようになる。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 自治体の避難行動要支援者への対応を調べておく。 ④復習（120分） 自治体の避難行動要支援者への対応を比較し、整理してまとめておく。
9	①授業テーマ 防災関係の社会資本整備に関する法制度 ②授業概要 実務経験に基づく講義により災害の防止・軽減のための河川法、砂防法、都市計画法、建築基準法等の社会資本整備に関する法制度の現状を学び、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 教科書や既往文献により、社会資本整備と行政についての基礎知識を得ておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、社会資本整備に関する法制度の現状について、自分なりの説明をまとめる。
10	①授業テーマ 水防法・土砂災害防止法・消防法について ②授業概要 水防法・土砂災害防止法・消防法の現状を学び、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。 ③予習（120分） 水防法・土砂災害防止法・消防法について、国土交通省や消防庁HP等により基礎知識を得ておく。 ④復習（120分） 講義ノートを確認して、水防法・土砂災害防止法・消防法について、自分なりの説明をまとめる
11	①授業テーマ 地震対策と法制度 ②授業概要 地震対策と関連する法制度の現状を学び、受講生がそれについて説明できるようにする。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。

	<p>③予習（120分） 地震対策と関連する法制度について、内閣府HP等により基礎知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、地震対策と関連する法制度について、自分なりの説明をまとめる</p>
12	<p>①授業テーマ 地震防災に関する法制度</p> <p>②授業概要 地震防災に関する法制度の現状を学び、受講生がそれについて説明できるようになります。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 地震防災に関する法制度について、内閣府HP等により基礎知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、地震防災に関する法制度について、自分なりの説明をまとめる</p>
13	<p>①授業テーマ 流域治水と法制度</p> <p>②授業概要 流域治水と関連する法制度の現状を学び、受講生がそれについて説明できるようになります。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 流域治水と関連する法制度について、国土交通省HP等により基礎知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、流域治水と関連する法制度について、自分なりの説明をまとめる</p>
14	<p>①授業テーマ 火山対策と関連する法制度について</p> <p>②授業概要 火山対策と関連する法制度の現状を学び、受講生がそれについて説明できるようになります。（C1、E1、F1、G1、H1、I3） 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 火山対策と関連する法制度について、内閣府や気象庁HP等により基礎知識を得ておく。</p> <p>④復習（120分） 講義ノートを確認して、火山対策と関連する法制度について、自分なりの説明をまとめる</p>
15	<p>①授業テーマ 災害と法のまとめ</p> <p>②授業概要 14回の授業での学びを総括し、我が国の災害に関する法制度のまとめの考察を行う（C1、E1、F1、G1、H1、I3）。また、レポートの課題を示します。 担当教員の実務経験を踏まえて指導します。</p> <p>③予習（120分） 講義ノート全体を読み直し、我が国の災害に関する法制度について自分の考えをもとに論じられるように準備する。</p> <p>④復習（120分） 全体を振り返り、自分の考えを再検証するとともに、今後の学習方針について考える。</p>
関連科目	事故責任法制RMGT3402、災害対策論RMGT3501、災害情報論RMGT3502、自然災害論RMGT3503、地域防災論RMGT3505、災害史RMGT3509
教科書	木下誠也『自然災害の発生と法制度』コロナ社、2018、ISBN 978-4-339-05256-5
参考書・参考URL	授業内で適宜紹介します。
連絡先・オフィスアワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■連絡先：開講時に告知します。</li> <li>■オフィスアワー：掲示板にてお知らせします。メールにて事前にアポイントメントをとってください。</li> </ul>
研究比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>■危機管理領域との対応 災害マネジメント70%；パブリックセキュリティ10%；グローバルセキュリティ10%；情報セキュリティ10%</li> <li>■危機管理学と法学のバランス 危機管理学60%、法学40%</li> </ul>

戻る